

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育園・施設見学		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 齊藤 茜
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所と施設の職務について理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>各保育所・施設において実際、かつ実践的に保育を学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育士としての実践力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>●見学先の保育方針・計画に沿って、指導保育士の指導の下で保育士としての総合的実践力を養う。</p>				
[使用テキスト・参考文献] 保育園保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育方法論		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育方法の定義・意義・守備範囲など大きな概念について基礎知識を習得し、教育現場における保育・教育の諸問題に対応していく具体的な方法を理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育・教育方法の変遷を見つめながら、保育現場の諸問題と保育・教育方法の関連性について着眼しつつ保育・教育方法の基礎倫理の習得を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教育方法の定義・意義・守備範囲・教育目標・教育内容・教育評価との関係について理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育方法とは何か 2 教えることと学ぶこと 3 教育方法と内容 4 文化的実践に参加する 5 教育方法の歴史的展開 6 日本における教育方法の変遷 7 教育メディアの発達と教育技術の革新及び情報機器、教材活動について指導 8 授業と学習＝意味と関係の再構築・教育方法の課題と展望 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育原理		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育・教育に携わる者に求められる保育に関する基本的な知識を学び、保育者としての視点を養い、保育・幼児教育の根幹をなす原理を追及する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもをめぐる環境を踏まえながら、「保育とは何か」を広い視野から捉えて保育全般を学ぶ。具体的には保育の意義と目的、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本について理解し、保育者としての資質の在り方に目を向け、保育における様々な課題に関する認識を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもの最善の利益を考慮した保育、環境による保育について考え、保育実践と結びつける。併せて、乳幼児の健康と安全な生活、子育て支援、現代の保育思想について理解を深め、具体的な事例を踏まえながら多角的な視野で保育を考える力を養う。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育の理念と概念
- 2 保育の社会的役割と責任
- 3 子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令
- 4 保育の実施体系
- 5 保育所保育指針に基づく保育
- 6 保育の目標と方法
- 7 乳児の保育
- 8 1歳以上3歳未満児の保育
- 9 3歳以上児の保育
- 10 子ども理解に基づく保育の過程①理論編
- 11 子ども理解に基づく保育の過程②実践編
- 12 諸外国の保育の思想と歴史
- 13 日本の保育の思想と歴史
- 14 諸外国の保育の現状と課題
- 15 日本の保育の現状と課題

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
新基本保育シリーズ保育原理 中方法規

[単位認定の方法及び基準]

試験やレポートの評価基準
授業態度・提出物など

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育原理		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育の思想とその作用、また我が国の教育制度と歴史について学ぶことにより教育の課題と可能性についての理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「教育」全般に関わる様々なテーマを扱う。こどもの発達、保育・教育の法制度、教育課程と教育方法、教育の歴史、といった分野について基本的な知識を習得し、自ら今日的課題と今後の展望について考察できる力の育成を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育所、幼稚園についての基礎的事項と保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容的な変遷を理解するとともに、教育という営みについて理解する。 また、教育思想について基礎的な知識を身につけ、それらについて適切な観点を持ち、「未来の保育者」としての考えを明確に持つことを目標とする。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 教育の意義
- 2 教育の目的
- 3 乳幼児期の教育の特性
- 4 教育と子ども家庭福祉の関連性
- 5 人間形成と家庭・地域社会
- 6 諸外国の教育思想
- 7 諸外国の教育の歴史
- 8 日本の教育思想・歴史
- 9 こども観と教育観
- 10 教育制度の基本
- 11 教育の法律と行政
- 12 諸外国の教育制度
- 13 教育実践の基礎
- 14 さまざまな教育実践
- 15 生涯学習社会における教育の現状と課題

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
新基本保育シリーズ 教育原理 中央法規

[単位認定の方法及び基準]

試験やレポートの評価基準など

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭福祉		授業の種類 講義 （講義・演習・実習）		授業担当者 齊藤 茜	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>望ましい保育者となるために、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深める。併せて、子ども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもや保護者に適切に対応できる保育者となるために、子ども家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性を身につけなければならないこと等について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷
- 2 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷
- 3 子どもの人権擁護（子ども人権擁護の歴史的変遷）
- 4 子どもの人権擁護（児童の権利に関する条約・人権擁護と現代社会における課題）
- 5 子ども家庭福祉の制度と実施体系（制度と法体系・実施体系）
- 6 子ども家庭福祉の制度と実施体系（実施体系・児童福祉施設）
- 7 子ども家庭福祉の制度と実施体系（児童福祉施設・子ども家庭福祉の専門職）
- 8 子ども家庭福祉の現状と課題（少子化と地域子育て支援）
- 9 子ども家庭福祉の現状と課題（母子保健と子どもの健全育成）
- 10 子ども家庭福祉の現状と課題（多様な保育ニーズへの対応）
- 11 子ども家庭福祉の現状と課題（子ども虐待・DVとその対応）
- 12 子ども家庭福祉の現状と課題（社会的養護・障害のある子どもへの対応）
- 13 子ども家庭福祉の現状と課題（少年非行等への対応・貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応）
- 14 子ども家庭福祉の動向と展望（次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進）
- 15 子ども家庭福祉の動向と展望（地域における連携・協働とネットワーク、諸外国の動向）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針（フレーベル館）
認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
子ども家庭福祉（中央法規）

[単位認定の方法及び基準]

小テスト・科目試験の結果により判定し評価する

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会福祉		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 小田 良秀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について、学びを深めながら、現代の社会福祉の動向、制度や関係機関の実施体系等についての把握に努める。併せて、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解していく。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史的変遷に触れ、その意義や制度体系について理解を深めるとともに、児童家庭福祉との関連についても学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 社会福祉の理念と歴史的変遷
- 2 子ども家庭支援と社会福祉
- 3 社会福祉の制度と法体系
- 4 社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等
- 5 社会福祉の専門職
- 6 社会保障および関連制度の概要
- 7 相談援助の理論
- 8 相談援助の意義と機能
- 9 相談援助の対象と過程
- 10 相談援助の方法と技術
- 11 社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み
- 12 少子高齢化社会における子育て支援
- 13 共生社会の実現と障害者施策
- 14 在宅福祉・地域福祉の推進
- 15 諸外国の社会福祉の動向

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針（フレーベル館）
認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
新基本保育シリーズ 社会福祉（中央法規）

[単位認定の方法及び基準]

科目試験の結果により判定し
評価する

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会的養護Ⅰ		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 門脇 ひとみ	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5 社会的養護の現状と課題について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>望ましい保育者になるために必要な社会的養護の基本的な知識、専門性、価値観を身に付ける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>社会的養護の変遷・現状と課題について理解する。</p>					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 現代社会における社会的養護の意義と変遷
- 2 子どもの人権擁護と社会的養護
- 3 家庭の機能と社会的養護
- 4 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育—日常生活支援
- 5 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護—自己実現に向けた支援
- 6 社会的養護の基本原則Ⅲ
子どもであることへの回復—治療的支援
- 7 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得—自立支援—
- 8 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成—生と性の倫理—
- 9 社会的養護の制度と実施体系
- 10 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ —乳児院と児童養護施設—
- 11 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ —障害児の入所施設—
- 12 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ —児童自立支援施設と児童心理治療施設—
- 13 家庭養護の特徴・対象・形態 —里親とファミリーホーム—
- 14 社会的養護の現状と課題
- 15 これからの児童福祉施設援助者・まとめ

[使用テキスト・参考文献]

児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ（萌文書林）

[単位認定の方法及び基準]

科目試験の結果により判定し評価する

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育者論		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 小田 良秀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育は子どもの成長発達に指導、援助する仕事として、子どもの学ぶ意欲を高め、知的好奇心を醸成し、人間関係を豊かにする保育を行う事が重要な目標である。保育者は保育への課題に関心を持ち、保育に関わる専門性を学ぶとともに、あるべき保育教育のビジョンを明確にすることを主要なテーマにし、自分が目指す保育者像の確立を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>望ましい保育者とは何かを希求し、その実現のために何を学び、理解し、身に付けなければならないかを主要なテーマにする。具体的な授業の内容は、保育者の資質、専門性、制度的位置付け、子ども理解、保育の内容と遊び、計画と相互的な指導、援助の在り方、保育者間の協働、保護者への支援と連絡、地域社会や専門機関・小学校との連携などである理論に基づいた実践、実践で確かめレベルアップされた保育理論の理解を深め、保育者としての意欲、態度、自覚を高める授業の展開をする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>時代の変化に対応した保育士の在り方を理解し、保育士に求められる専門性について理解する。併せて、保育士に求められる資質能力や保育士の在り方などの基本事項について理解する。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育者をめざす
- 2 保育するとは
- 3 保育者に求められる資質・能力
- 4 保育者資質と役割
- 5 子どもと生きる保育者の生活
- 6 子どもの成長と子どもの育成力を支える保育者
- 7 子どもを育てるものの共同性
- 8 保育者としての成長
- 9 現代社会の課題と保育者
- 10 さまざまな国における保育者 —世界の保育について考える—
- 11 さまざまな国における保育者 —世界の保育について考える—
- 12 家庭や地域社会、保育園、幼稚園、小学校との連携
- 13 保育者のこれまでをふりかえる
- 14 保育者の基礎となる人間性・アイデンティティについて
- 15 これからの保育を担う —21世紀の保育課題—

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
保育者論—共生へのまなざし—同文書院

[単位認定の方法及び基準]

試験やレポート・出席日数
授業態度など

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育の心理学		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 中野 武房
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発達を捉える視点 2 発達はどのように起こるか 遺伝説と環境説、それらの複合説について 3 情緒の発達と社会性の発達 乳幼児期の発達・情緒の発達と自我・自己主張と自己抑制 4 情緒の発達と社会性の発達 愛着の形成・社会的相互作用 5 ボウルビーによる愛着理論と愛着の発達 6 ストレンジシチュエーション法と愛着理論の保育への活用 7 身体的機能と運動機能の発達 8 認知と言語の発達 9 基本的生活習慣の獲得と発達 10 子どもの学びと保育 乳幼児期の学びにかかわる理論・乳幼児期の学びの過程と特性—遊びから 11 子どもの学びと保育 乳幼児期の学びを支える保育 				

- 1 2 児童期の発達
- 1 3 青年期の発達
- 1 4 壮年期・老年期の発達
- 1 5 発達課題、発達段階の理解による保育計画

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針（フレーベル館）
認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解（萌文書林）
発達心理学（豊岡短期大学）

[単位認定の方法及び基準]

科目試験・レポート課題の結果により判定し評価する

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 保川 香奈
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題等について学ぶ。家族・家庭の意義や機能を把握するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。子育て家庭を取り巻く社会的状況と課題について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期から老年期における発達について理解する。 2. 家族・家庭の意義とその機能について理解する。 3. 子育て家庭に関する現状と課題について理解すえう。 4. 子育てを取り巻く社会的状況と課題について理解する。 5. 子どもの精神保健とその課題について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 乳児期の発達
- 2 幼児期の発達
- 3 学童期の発達
- 4 青年期の発達
- 5 成人期・中年期の発達
- 6 老年期の発達
- 7 家族・家庭の意義と機能
- 8 親子関係・家族関係の理解
- 9 子育ての経験と親としての育ち
- 10 子育てを取り巻く社会的状況
- 11 ライフコースと仕事・子育て
- 12 多様な家庭とその理解
- 13 特別な配慮を要する課程
- 14 子どもの生活・生育環境とその影響
- 15 子どもの心の健康に関わる問題

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針（フレーベル館）
認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）
子ども家庭支援の心理学（中央法規）

[単位認定の方法及び基準]

小テスト・科目試験の結果により
判定し評価する

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもと遊び		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 櫻木 美歌
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年		選択必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>乳幼児期の子どもの発達の特性と遊びの関係性を考えることにより、より良い遊び環境をどのようにデザインするか実践的に学ぶ。また、子どもの興味・関心や発達を促す遊びについて考え、発達段階に応じた遊びの計画を立てることができることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもが遊びの中で人と関わる力や思考力・感性や表現する力を育むためにはどのような活動があるかなど、保育者としてその遊びの重要性を理解し、実践的を通して活動を計画できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の心身の発達と遊びの関わりについて理解し説明できる。 2. 身近な素材や自然との関わりや各年齢に適した遊びの重要性を学ぶ。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 オリエンテーション
- 2 幼児のリズム遊び
- 3 ルールのある遊び
- 4 新聞紙遊び
- 5 集団遊び
- 6 運動遊び
- 7 1歳児の保育と遊び
- 8 2歳児の保育と遊び

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

実践態度・試験

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育の計画と評価		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育課程について理解する。 2. 保育所保育指針解説・認定こども園教育・保育要領解説に記されている、全体的な計画と指導計画について理解する。 3. 本講義を通して、保育者としての自覚や資質の向上につなげる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>幼児、子どもを育てる上で、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、どのような内容でどの時期にどんな環境で等々を学ぶ。併せて、保育課程の意義と役割を明らかにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子ども理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育の計画と評価の基本（カリキュラムの基礎理論）
- 2 保育の計画と評価の基本（保育における計画と評価の意義）
- 3 保育の計画と評価の基本（子ども理解に基づく保育の過程の循環による保育の質の向上）
- 4 保育所における保育の計画（保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容及び社会的背景）
- 5 保育所における保育の計画
（保育所保育指針における保育の目標と計画の基本的な考え方）
- 6 保育所における保育の計画（全体的な計画と指導計画の関係性）
- 7 保育所における保育の計画（全体的な計画の作成）
- 8 保育所における保育の計画（指導計画長期的の作成）
- 9 保育所における保育の計画（指導計画短期的の作成）
- 10 保育所における保育の計画（指導計画作成上の留意事項）
- 11 保育所における保育の計画（計画に基づく保育の柔軟な展開）
- 12 保育所における保育の評価（保育の記録及び考察）
- 13 保育所における保育の評価（保育士及び保育所の自己評価）
- 14 保育所における保育の評価（保育の質の向上に向けた改善の取組）
- 15 保育所における保育の評価
（生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
試験・提出物・授業態度

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育内容総論		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 畠山 勝
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体的構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>各領域の関わりを踏まえ、実際の子どもの姿や保育場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう、具体的な実例をもとに解説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保・幼・小の連携の必要性と具体的な取り組みについて理解する。保育内容の変遷、生きる力の基礎を育む保育内容、保育における自己評価の在り方について学ぶ。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育の全体的構造
- 2 保育の全体的構造
- 3 保育内容の歴史的変遷
- 4 保育内容の歴史的変遷
- 5 養護と教育の一体的展開
- 6 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容
- 7 乳幼児期にふさわしい生活と保育内容
- 8 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開
- 9 生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開
- 10 全体的な計画の作成と指導計画の作成
- 11 全体的な計画の作成と指導計画の作成
- 12 保育の評価と保育の記録
- 13 保育の評価と保育の記録
- 14 保育内容の現代的課題について
- 15 保育内容の現代的課題について

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
「保育内容総論」豊岡短期大学

[単位認定の方法及び基準]

試験・実技・レポートなど

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 健康（保育内容演習）	授業の種類 演習 （講義・演習・実習）	授業担当者 阿部 修久	
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15（1）	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「健康」のねらいと内容が理解できるようになる。 2. 健全な発育・発達を阻害している健康問題を認識・考察し、健康保持の生活についてアプローチしようとする力を養う。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児期の健康に関する幅広い知識と個々の発育・発達の状態に合った配慮の仕方、子どもが健康でたくましく育つための具体的方法について、現代社会の子どもを取り巻く生活環境にも目を向けながら、子どもの積極的な健康指導を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「健康」概念の変遷とこどもの置かれている「健康」状態と課題を学ぶ。 2. 保育所保育指針における領域「健康」のねらいと内容を理解する。 3. 子どもの発育・発達について、身体的・精神的・社会的側面から理解する。 4. 子どもを取り巻く環境の現状と環境（人的・物的）整備の視点を学ぶ。 5. 幼児期に習得したい基本的な生活習慣と食育について、内容と方法を学ぶ。 			

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 健康に関する世界の流れ・人間の権利と健康・こどもの健康の今日的課程
- 2 保育所保育指針「健康」のねらいと内容
- 3 こどもの身体的発達の実際
(筋・骨格系・神経系・循環器系・消化器系・発達を促す視点と取組)
- 4 こどもの身体的発達の実際(運動系)
- 5 こどもの精神的発達と社会的発達の実際・発達を促す視点と取組み
- 6 こどもを取り巻く環境の現状と課題
- 7 基本的な生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱)
- 8 食育と栄養

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
子どものこころとからだを育てる保育内容
「健康」第2版 保育出版社

[単位認定の方法及び基準]

レポート・授業態度など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 環境（保育内容演習）		授業の種類 演習 （講義・演習・実習）		授業担当者 土田 和美
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15（1）	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容「環境」のねらいと内容を把握する。 2. こどもを取り巻く様々な環境（人的・物的・自然・社会・文化）について理解し、関心を持てるようになる。 3. 保育者の役割を常に考え、保育を実践できる力をつける。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもは生活環境（物的環境・人的環境・自然環境・社会環境）から、様々な経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。そのことを念頭に、環境とは何かを理解し、どのように関わるかを中心に、保育現場における具体的事例を挙げて学習していく。また、グループ学習を含め、視聴覚教材を使用し、より深く学んでいく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>乳児から幼児への時期には、自己とは異なる身の回りの事象と関わりを認識し始める。そのうえで、「それらを子ども達がどのように捉え、その後の生活においてどのような関わりを持つか」について、教える側としての認識と知識を確認する。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 環境という言葉、環境の定義
- 2 環境を通して行う保育の意味
- 3 領域「環境」の位置付け（ねらい・内容）
- 4 領域「環境」の位置付け（内容の取扱い・指導計画）
- 5 身近な環境の構成（人的環境・物的環境）
- 6 身近な環境の構成（自然環境、社会・文化環境）
- 7 保育における環境の重要性（好奇心・探求心）
- 8 保育における環境の重要性（思考力の芽生え）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
こども環境から考える保育内容 北大路書房

[単位認定の方法及び基準]

試験・レポート・実技など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 言葉（保育内容演習）		授業の種類 演習 （講義・演習・実習）		授業担当者 川野 千枝
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「人としてのあかし」と言われる言葉について、乳幼児期の言葉の発達過程を理解する事を目的とする。 2. 言葉を用いて思考し、人に話そうとする意欲、他人の話を聞く姿勢・態度 小学校の生活に必要な自己表現ができる「言葉」の獲得等について理解することを目的とする。 3. 言葉遊び（わらべうた・なぞなぞ・しりとり等）、文字体験（カルタ・標識・ごっこ遊び）等の活動を通して言葉に対する感覚、言葉の持つ美しさ 楽しさを認識し、理解する。 4. こどもの豊かな言葉を育むにはどのようにすべきか、物語・絵本・紙芝居 等のイメージーション体験を通して日常的に使用する言葉以外の言葉の 獲得のあり方について認識し、理解する。 5. 言葉に問題があったり、遅れがある幼児、また外国籍の幼児等について個 々に応じた配慮、支援を認識し理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢 などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教 材についても相互の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得すること の意義を探究する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期の言葉がどのような過程を経て獲得するか言語環境、非言語環境、信 頼できる人とのふれ合い等もふまえて、年齢別のコミュニケーションを図ること ができるようになる。 2. こども自らが言葉を発することの意味を保育者、友達、保護者との関係から認識し理 解できるようになる。 3. 乳幼児期の言葉の重要性を、絵本・物語・言葉遊び・文字体験活動等も加え、広範囲 に役割が認識できるようになる。 				

4. こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる
5. 言葉の障害、外国籍の幼児について配慮、支援のあり方を認識し、理解できるようになる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 言葉とは何か・生活と言葉・言葉環境としての保育者のあり方
領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり
- 2 乳幼児期の言葉の発達過程と保育者としての評価
- 3 言葉を豊かに育む活動
言葉遊びによる感覚・わらべうた・なぞなぞ・しりとり・ごっこ遊び・劇遊び等
- 4 言葉を豊かに育む活動
言葉から文字へ、文字による環境
文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の制作及び模擬保育体験
- 5 保育者と言葉のあり方
- 6 言葉を豊かに育む活動
言語教材としての絵本の意義・絵本と保育現場の実際
- 7 言葉を豊かに育む活動
読み聞かせによる留意点・実践と模擬保育
- 8 言葉を育てる児童文化財の特徴と活かし方
- 9 言葉の発達に関する保育者の役割
- 10 言葉を育むための環境とは
- 11 絵本の読み聞かせと子どもの言葉の発達について
- 12 ①読み聞かせをする絵本の選び方と実践
- 13 ②読み聞かせをする絵本の選び方と実践
- 14 保育所保育指針の「言葉」の領域に則った遊びの実践
- 15 言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
「ことばからの育ち一言葉
(保育内容・実践と研修シリーズ)
「魅力ある保育者たち」ひかりのくに

[単位認定の方法及び基準]

試験・授業態度・模擬保育など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係（保育内容演習）		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性をもつ事を理解し総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 2. 子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 3. 上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えるとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程の実際について理解する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子ども達を取り巻く「人間関係」のあり方「保育所保育指針」と「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々な関わりを通じた人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育所保育指針における領域「人間関係」のねらい・内容・内容の取扱い（配慮事項）を理解して、実践展開に向けての構想力を育む。乳幼児期の人間関係がどのように育っていくかを学び、子どもの自立心や人と関わる力を養うために必要となる保育・教育の実践方法や援助方法についての理解を深めることを目標とする。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育所保育指針における「人間関係」を理解する。
- 2 幼児教育の基本・領域「人間関係」と他領域との関係
- 3 乳幼児期の発達。幼児と保育者の信頼関係の形成・園生活と人とのかかわり
- 4 自己発揮と自己抑制・幼児同士のいざこざとその援助
- 5 人とのかかわりを見る視点と保育士の役割
- 6 事例検討
- 7 事例検討
- 8 「人間関係」の授業から理解できたこと（感想・考察）発表

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

「事例で学ぶ保育内容領域人間関係」

萌文書林

[単位認定の方法及び基準]

試験・授業態度・小テストなど

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） こどもとリズム遊び		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を修得していく。また、実践を通して保育者としての感性や人間力の育成を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識を修得する。併せて、子どもにとっての音楽表現、身体表現などの様々なリズム遊びの効果的な指導法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表現に関する知識や保育技術の修得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す 2. リズム遊びを通して、子どもの主体性・想像力・想像力を育む事を理解する。 3. 音に合わせて、走ったり、止まったり、跳んだり、転がったり、這ったりと体全体で表現することにより、心身の発達を促すことを学び、実践する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 領域「表現」についての基本的な考え方
- 2 領域「表現」についての基本的な考え方
- 3 基礎リズム
- 4 基礎リズム
- 5 基本動作
- 6 基本動作
- 7 タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解
- 8 タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

授業態度・実践

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 自然遊びと表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く身近な自然環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解する。併せて、自然の中で遊ぶことの意義や重要性を学び、自ら実践する事によって理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>子どもの生活と自然との関わりを意識し、遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。身近な環境に触れながら、子ども達にどのような遊びが考えられ、どのような事を育むのかを理解する。また、動植物との関わり方や四季折々の自然に触れ、自らの五感を研ぎ澄ます。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。併せて、自然に触れ、五感（見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触る）をフルに活用し、綺麗な景色を見て感動したり、鳥の鳴き声や川のせせらぎを聞いて癒されたり、旬の物や自分がとった物を食べておいしいと感じたり、花や植物の匂いを嗅いで癒されたり、危ない物に触り痛みを経験することで危険を回避できたりなどの様々な経験を通して、情緒豊かな保育者としての質の向上を目指す</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保育所保育指針から見る子どもと自然の関わり
- 2 食物栽培から学ぶ（種付け・育てる）
- 3 身近な自然に触れる
- 4 身近な自然に触れる
- 5 食物栽培から学ぶ（収穫・食育）
- 6 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ
- 7 身近な自然やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ
- 8 こども自ら児童文化財に親しむ体験をする

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
実技・試験

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 表現とこどもの運動		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年	必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>子ども達が自分の思いや考えを他者に伝えることができるため多くの表現ができる環境設定が大切であることを理解し身につける。また、遊びを通して心身の発達を促すことを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>運動遊びの実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく運動遊びが展開できる知識及び実践力を身に付ける。併せて、一人ひとり様々な表現を楽しむことの必要性・重要性を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子ども同士での運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状態に応じた援助の在り方を理解し、各種の問題に取り組むことができるようにする。</p> <p>また、運動遊びをとおして人との関わり、協力し合うことを実践し、保育者としての資質向上につなげる。</p>				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 運動遊びのねらい
- 2 運動遊びのねらい
- 3 運動遊びの援助について
- 4 こどもの発達と運動について（保育所保育指針解説）
- 5 こどもの発達と運動について（屋内・屋外）
- 6 こどもの発達と運動について（行事・地域活動）
- 7 運動遊びの基本的な動き
- 8 運動遊びの基本的な動き

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
実践態度

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽表現		授業の種類 演習 （講義・演習・実習）		授業担当者 大桃香里 石井由香里 渡辺幸子 木村香鈴	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育内容を理解し、具体的な音楽表現活動が展開できる技術と音楽的知識の習得を目的とする。保育内容にそって、こどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人間形成（情緒・表現・鑑賞等）を育成することをテーマに学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 歌唱、ピアノ伴奏および弾き歌いを中心に学習する。また、理論では保育現場で必要な音楽表現を豊かにするための音楽的知識を学ぶ。実技習得は、各自に習熟度に応じた指導を個別に行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 実習や就職を意識し、保育士として実践に活かせる実力をつける。</p>					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 オリエンテーション ピアノ実技レッスン授業としてのガイダンス
- 2 ピアノ初歩練習曲の学習 教科書掲載曲の学習
- 3 演奏する曲を教科書の中からレベルに合わせて選曲
- 4 課題曲及び練習曲の学習
- 5 発表会形式によるプレテスト（これまでの成果の発表、お互いの演奏を聴き合う）
- 6 弾き歌いについて（弾き歌いのための基本演奏法とコードネームについての学習）
- 7 弾き歌い実践（「例題曲」を用いての練習）
- 8 弾き歌い実践（「例題曲」を用いての練習）
- 9 弾き歌いの実践とピアノ曲の練習（弾き歌いの実践）
- 10 発表会形式による発表（これまでの成果の発表、お互いの演奏を弾きあう）
- 11 課題曲決め（演奏曲を教科書の中からレベルに合わせて選曲 弾き歌い曲も選曲）
- 12 弾き歌いの実践とピアノ曲の練習（課題曲の継続的練習）
- 13 教科書の学習（バイエル後半曲、ブルグミュラー）の学習、弾き歌いの実践とピアノ曲の練習（課題曲の継続的練習 弾き歌いの実践）
- 14 教科書の学習（バイエル後半曲、ブルグミュラー）の学習、弾き歌いの実践とピアノ曲の練習（課題曲の継続的練習 弾き歌いの実践）
- 15 実技発表（発表会形式の実技発表と考察 お互いの演奏を聴き合う）

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

「こどものうた」[簡易伴奏曲付]

田中常雄監修 平島美保・木村鈴代・

小杉裕子著

[単位認定の方法及び基準]

授業態度、実技・筆記試験等の結果を
総合して評価する

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 造形表現		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 松平 康生
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		選択必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育内容を理解し、造形の基本的な知識と特に手の動き・感性・思考が一体となった実践学習を通して造形感覚の基礎的陶冶を図る。また乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、保育の中で取り扱う教材に必要な知識や技能の習得を目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>幼児造形の指導援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習し、それらを踏まえながらテーマをもとに色彩構成学習の実際を学び、合わせて用具や描画材について体験的に理解する。さらにイメージをもとにした製作体験と、素材をもとに、それらの特性を活かし工夫する製作を展開する。具体的には、保育現場の教材も視野に入れ日用品や廃材を使った製作をしていく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育内容を理解し、子どもの造形的な遊びを展開するために必要な造形知識が理解できることを目標とする。 2. 形や色、素材等の造形に関する基礎知識をもとに、描くための材料や用具取り扱いと製作活動を通して造形表現できることを目標とする。 3. 子どもの生活経験と造形表現活動を結びつける遊びの展開を踏まえ、実践的な保育の教材やそれらを展開するための知識や技術を習得できることを目標とする。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 幼児造形教育の重要性と研究の観点
- 2 幼児造形表現の特徴について
- 3 幼児造形表現の領域・道筋について
- 4 形態・色彩・素材について
- 5 えがく・つくる造形表現について
- 6 造形遊びの手法について
- 7 えがく表現による製作
- 8 つくる（立体）表現による製作
- 9 指導計画、鑑賞・評価について
- 10 指導案、模擬授業等について、課題作成
- 11 指導案、模擬授業等について、課題作成
- 12 指導案、模擬授業等について、課題作成
- 13 模擬授業・反省・評価
- 14 模擬授業・反省・評価
- 15 幼児造形教育の今後の課題・まとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
授業態度・模擬授業の取組、試験等
にて評価する

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 音楽表現Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 大桃香里 石井由香里 渡辺幸子 木村香鈴	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の調和のとれた心身の発達を促すものは、保育者の意図的・計画的な指導によることを理解する。 ・ こどもの感性を培うための音楽活動のあり方を理解する。 ・ 保育者に求められる豊かな音楽表現を習得する。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>保育所等における表現活動の意味・目的について学び、子ども達の持つ生きる力や可能性をできる限り引き出すための音楽活動について考察する。そして、子どもの感性を培う音楽活動の指導法習得を目標に、鍵盤楽器を通して子どもと遊ぶ方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>発表会形式の成果発表を経験することにより、保育者に求められる豊かな音楽表現の習得を図るとともに、弾き歌い等への応用方法について研究をすすめる。</p>					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 基礎的演奏の確認及び補填、または矯正
- 2 基礎的演奏の確認及び補填、または矯正
- 3 鍵盤楽器を通した子どもとの遊び方
- 4 遊びの多様性と工夫のあり方
- 5 子どもの（感じや考え）を導く音楽活動
- 6 <こどもと遊ぶ>をテーマとする音楽表現活動の実践①
- 7 <こどもと遊ぶ>をテーマとする音楽表現活動の実践②
- 8 <こどもと遊ぶ>をテーマとする音楽表現活動の実践③
- 9 簡易伴奏についての理解と応用、子どもの教育における表現活動のあり方
- 10 環境構成の視点に立った音楽とのかかわり方
- 11 楽表表現活動を目的として簡易伴奏の実践①
- 12 音楽表現活動を目的として簡易伴奏の実践②
- 13 音楽表現活動を目的として簡易伴奏の実践③
- 14 自由曲・課題曲発表
- 15 弾き歌い発表

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
こどもと音楽表現

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 造形表現Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 松平 康生
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>基本的知識・技術の習得とスキルアップ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習と理論の両面から実践形式で進める。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもの発達・ねらい・援助の在り方など、指導法を交えて造形表現活動の在り方について理解を深める。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 造形表現の理念 2 造形表現の理念 3 色彩の原理 4 色彩の原理 5 造形表現のねらい 6 造形表現のねらい 7 作って遊ぶ 8 作って遊ぶ 9 季節に学ぶ 10 季節に学ぶ 11 季節に学ぶ 12 牛乳パック椅子 13 牛乳パック椅子 14 牛乳パック椅子 15 デザインとは 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 乳児保育Ⅰ		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 佐藤 知子
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の発達を理解し、保育者として必要な援助の方法や技術を身に付ける 2. 乳児保育の場について家庭及び家庭的保育などの現状と関連性を理解する。 3. 乳児保育の現状と役割、援助について具体的に理解できる。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳児保育の歩みと現状、乳児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷
- 2 乳児保育の役割と機能
- 3 乳児保育における養護及び教育
- 4 乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題
- 5 保育所における乳児保育
- 6 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
- 7 家庭的保育等における乳児保育
- 8 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
- 9 3歳未満児の生活と環境
- 10 3歳未満児の遊びと環境
- 11 3歳以上児の保育に移行する時期の保育
- 12 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと配慮
- 13 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わりと配慮
- 14 職員間の連携・協働/保護者との連携・協働
- 15 自治体や地域の関係機関等との連携・協働/まとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針

認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

試験・授業態度など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 子どもの健康と安全		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 北見赤十字社
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15(1)	配当学年・時期 1学年		必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>こどもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践能力を高める。さらに、事故や感染症等の健康安全管理について理解し、予防対策の取組についても理解する。また、日常的にかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。併せて、健康・安全管理の体制についても学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。また、子どもの疾病について具体的な対応や支援の仕方を実践を通して学習する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン（保育所におけるアレルギー対応ガイドライン等）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
- 2 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
- 3 保育における健康及び安全の管理（衛生管理・事故防止及び安全対策）
- 4 保育における健康及び安全の管理（危機管理・災害への備え）
- 5 子どもの体調不良等に対する適切な対応
(体調不良や障害が発生した場合の対応)
- 6 子どもの体調不良等に対する適切な対応
(応急処置・救急処置及び救急蘇生法)
- 7 感染症対策
- 8 保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領からみる
健康と安全

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
試験・授業態度

授業科目名 (担当講師)	単位数	学習形態
音楽表現指導法 (大桃香里)	2単位	演習
授業のテーマおよび学習成果		
<p>領域「表現」の「音楽表現」に視点を置き、領域「表現」の全体目標への到達を目指し、より具体的、実践的、対話的な保育実践の方法を習得する。</p>		
<p>《学習成果》</p>		
<p>感性と表現に関する領域「表現」のねらいと内容を理解するとともに、音楽表現活動に必要な知識習得し理解を深める。また、模擬保育を行い、実践力を高める。</p>		
授業の概要		
<p>領域「表現」は、幼児期の終わりまでに育ってほしい「豊かな感性と表現」を育む重要な領域である。領域「表現」の目標を理解するとともに、音楽を通した様々な表現活動の在り方や実践の方法を具体的に理解する。また、小学校における教科「音楽」とのつながりについても理解する。</p>		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 領域「表現」における目標と「ねらい」及び「内容」の理解 表現活動を支える伴奏についての基礎知識の修得と実践 2. 乳幼児の発達過程に応じた音楽表現の理解 表現活動における伴奏の方法と実践 3. 映像視聴による身近にある音風景「自然の音」「身の周りの音」への気付きと表現方法 サウンドスケープや映像視聴などの実践と楽器による表現及び伴奏法 4. 声の仕組み、「歌う」表現活動の理解 乳幼児の発達とその表現活動を促す伴奏法 5. 映像を活用した0、1、2歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を育む伴奏法 6. 映像を活用した3、4、5歳児の「声」の発達と表現活動の理解と実践 乳幼児の「声」に合わせた表現活動を支え引き出す伴奏法 7. 「わらべうた」や「伝承あそび」などにおける実践 「わらべうた」や「伝承あそび」などに親しむための指導法 8. 領域「表現」と他の領域とのかかわりの理解と応用 他の領域と関連した生活や行事などをテーマにした曲の理解と弾き歌いの実践 9. 指導計画に基づいた指導案の作成のポイントと模擬保育の進め方 模擬保育に使用する歌や曲の選曲及び教材研究とその伴奏・効果音の研究 10. 指導案作成における環境構成及び保育者の援助の確認と模擬保育の留意点 模擬保育に使用する歌や曲の教材研究と伴奏法の実践 11. 模擬保育「いろいろな音を集めてあそぼう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い・伴奏法の実践 12. 模擬保育「わらべうた・伝承遊びを楽しむ」の実践と指導案の討議 模擬保育でのわらべうた・伝承あそびの弾き歌いと伴奏法の実践 13. 模擬保育「自然物や身近な素材を活かして楽器あそびをしよう」の実践と指導案の討議 模擬保育での弾き歌い及び楽器あそびの教材研究と伴奏法の実践 14. ポートフォリオなどを活用した「音楽表現の可視化」の実践と「学びの振り返り」の理解 保育活動を音楽表現で構成する手法と伴奏法の実践 		

15. 小学校1年生、教科「音楽」への接続と学びの連続性についての理解とまとめ

テキスト

「こどもと音楽表現」（配本テキスト）

「音楽表現論」（配本テキスト）

「幼稚園教育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

「保育所保育指針解説書」（最新版）（フレーベル館）

「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（最新版）（フレーベル館）

参考書・参考資料等

- ・領域「表現」子どもと楽しむための音楽表現 ～のびのびと心と身体を育む～ 柳澤邦子著 フレーベル館(ISBN:9784577813706)
- ・育ちと学びをつなぐ「幼保小連携教育」の挑戦 実践接続期カリキュラム 木村吉彦監修 ぎょうせい (ISBN:9784324100844)
- ・たのしく遊べるこどものうた改訂版 大山美和子／田中常雄／磯貝静江／茨木金吾共著 すずき出版社(ISBN:9784790270416)
- ・改訂幼児のための音楽教育 神原雅之／鈴木恵津子編著 教育芸術社 (ISBN:9784877888220)
- ・年中使える！先生と園児のための♪こどものうた 130+20 森真奈美／秋山さやか／石井由希子／川田千春／渋谷絵梨香／鈴木奈美／横山潤子ピアノ編曲 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス(ISBN:9784636950090)
- ・やさしく弾けるピアノ伴奏 保育のうた 12か月 河本芳子編曲 新星出版社 (ISBN:9784405071391)
- ・新版和音伴奏による幼児のうた 100 曲 在原章子／菊本哲也／柳田憲一／山内悠子共著 全音楽譜出版社(ISBN:9784116200561)
- ・これで安心！保育指導案の書き方 開仁志編著 北大路書房 (ISBN:9784762826214)

学生に対する評価

【面接授業】

科目の成績評価：受講態度や単位認定試験結果等を総合的に評価する

【別紙8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 造形表現指導法		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 松平 康生
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		選択必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>保育の内容を理解し、乳幼児を含めた子どもの造形の指導援助者として、子どもの発達と保育の中で取り扱う教材に必要な知識と、さらに材料・用具の操作体験などの実践学習を通して、体験的に技術的なことも学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現を理解する学習。さらに遊びとモノとの関わりから「描く」「作る」「造形遊び」などの題材や環境構成、援助のあり方について知識と製作体験を関連付けながら学習を展開する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本的なことが理解できることを目標とする。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できることを目標とする。 3. 乳幼児の表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できることを目標とする。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 子どもの表現について
- 2 保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」
- 3 保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における「感性」と「表現」
- 4 乳幼児期の発達区分と造形表現の特徴と領域について
- 5 乳幼児期の発達区分と造形表現の特徴と領域について
- 6 子どもの造形表現の環境作りと援助について 1歳児から2歳児
- 7 子どもの造形表現の環境作りと援助について 1歳児から2歳児
- 8 子どもの造形表現の環境作りと援助について 2歳児から3歳児
- 9 子どもの造形表現の環境作りと援助について 2歳児から3歳児
- 10 子どもの造形表現の環境作りと援助について 4歳児から6歳児
- 11 子どもの造形表現の環境作りと援助について 4歳児から6歳児
- 12 教材研究 指導計画と教材について
- 13 教材研究 指導計画と教材について
- 14 保育内容の課題について
- 15 保育内容の指導法「表現」の課題について・まとめ

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
提出物・試験・授業への取組等
総合して評価する

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） リズム表現指導法		授業の種類 演習 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 奥田 祥恵
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1学年	選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>音楽表現、身体表現、言語表現、造形表現の各領域を横断した「表現」に関する知識や保育技術の習得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>幼児にとって、音楽と身体は自己表現と切り離せない密接な関係であり、その表現について、意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を自らの音楽表現や身体表現、言語表現、造形表現から学習する。さらに見通しを持った保育内容を実践できるように、指導援助者としてあるべき姿を追求していく。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 習得した知識・技術を実践にて発表し合い考察・評価を行う。 2. 子どもに育みたいねらいを明確にし、表現活動を考え自ら実践する事により、保育者としての質の向上を目指す。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 領域「表現」についての基本的な考え方
- 2 表現活動をのびのびと行える環境作りの重要性と実践方法について
- 3 身体表現（歩く、走る、スキップ、ギャロップの基本的リズムパターンの理解とその応用）
- 4 身体表現（ムーブメント（動くこと）について）
- 5 音楽表現（打楽器の取り扱い方から演奏を主とした表現活動について）
- 6 音楽表現（手作り楽器の制作から演奏を主とした表現活動について）
- 7 実践からみる表現するための保育者の役割と援助
- 8 実践からみる表現するための保育者の役割と援助

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領

[単位認定の方法及び基準]

（試験やレポートの評価基準など）
実技・授業態度等

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅰ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園、児童福祉施設とは何かを知る。 2. 実習の流れと実習上の留意点を理解する。(マナー等含む) 3. 実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>実習の意義を理解し、学校での学びを踏まえ、どのように子どもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立てる。併せて、保育指導案の書き方、実習簿の書き方を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的、児童福祉施設の役割について理解する。 2. 実習の流れや実習の留意点を学ぶとともに、実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身に付ける。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

- 1 実習の意義・目的を理解する
- 2 保育所とは何か、保育所の置かれた現状について
- 3 新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について
- 4 保育所を構成する職員や職種間の連携
- 5 社会人としてのマナー・報告、連絡、相談
- 6 乳幼児の年齢別発達の特徴
- 7 緊急時の対応（けが・地震・火事等）、事故を防ぐ留意点
- 8 観察実習、参加実習、責任実習とは何か、観察の仕方とは
- 9 実習簿の書き方と保育指導案の立て方
- 10 実習簿の書き方と保育指導案の立て方
- 11 実習簿の書き方と保育指導案の立て方（施設）
- 12 実習簿の書き方と保育指導案の立て方（施設）
- 13 絵本の読み方、手遊びの仕方、ピアノ等の保育技術の利用の仕方
- 14 児童福祉施設の種別及び特徴、他職種及び他機関との連携
- 15 社会的養護の原理・原則及び支援の留意点と守秘義務について

[使用テキスト・参考文献]

保育所保育指針
認定こども園教育・保育要領
幼稚園保育所実習パーフェクトガイド わ
かば社
施設実習パーフェクトガイド わかば社

[単位認定の方法及び基準]

試験、実技、日誌・指導案の提出など

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 櫻木 美歌
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 実習や演習の科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習による総合的な学び 2 保育実習による総合的な学び 3 保育の実践力の育成 4 保育の実践力の育成 5 計画と観察、記録、自己評価 6 計画と観察、記録、自己評価 7 保育士の専門性と職業倫理 8 事後指導における実習の総括と評価 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

授業科目名 (担当講師)	単位数	学習形態
保育実習指導Ⅲ (伊藤 寛子)	1 単位	演習
授業のテーマ及び学習成果		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設における保育者の専門性について理解する。 2. 児童福祉施設に暮らす子どもや親について理解する。 3. 児童福祉以外の社会福祉施設について知る。 4. 老人福祉・障害者福祉における保育者の役割等簡単に理解する。 5. 施設内の連携、他機関との連携について理解する。 <p>4. 実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。</p> <p>《学習成果》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども支援、親支援の現状について、保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考えることができる。 2. 実習を振り返り、実習施設種の抱える問題、そこで働く職員の職種と職務内容、子どもたちが置かれた現状について理解できる。 		
授業の概要		
施設種により保育者の仕事の具体的な支援内容は異なる。自分の行く実習施設種を中心に事前レポート、事後レポートなどで学習する。		
授業計画		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉施設の施設種の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・施設の現状と問題点について 2. 社会的養護の現状について 3. 自分の行く実習施設種を中心とした実習施設の現状と問題点 4. 児童福祉施設における子ども支援、親支援の現状について (保育実習Ⅰの経験を振り返りながら考える) <ol style="list-style-type: none"> ①乳児院・児童福祉施設等への入所理由の理解と子ども支援・親支援の実際。 ②障がい (児・者) の障がい特徴と支援上の留意点 ③老人関係の施設種と老人の福祉について 5. 社会的弱者支援の基本を知る (1) <ul style="list-style-type: none"> ノーマライゼーションの意味を理解し、どのような支援を通して実践しているかを知る 6. 社会的弱者支援の基本を知る (2) <ul style="list-style-type: none"> 人権の保護とエンパワメント (人権侵害とは何か) について知る 7. 個別支援計画と他機関との連携について 8. 事後指導における実習の総括と評価 <ul style="list-style-type: none"> ・実習の総括と自己評価 ・自分の保育者としての課題の明確化 		
テキスト		
「保育実習指導」(配本テキスト) 「保育所保育指針解説書」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)		
参考書・参考資料等		
「施設実習パーフェクトガイド」小櫃智子他著 (わかば社) (ISBN : 9784907270094)		
学生に対する評価		
学習状況の確認：レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価する		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 英語		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 東海林 ゆかり	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身につける。 [授業全体の内容の概要] 保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 保育現場で使用される英語表現を身につけ運用することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 英語の文法 2 英語の文法 3 英語の文法 4 英語の基礎構文 5 英語の基礎構文 6 英語の基礎構文 7 入園準備に必要な英語の学習 8 登園・校園に必要な英語の学習 9 室内遊びに必要な英語の学習 10 外遊びに必要な英語の学習 11 健康・怪我・病気に必要な英語の学習 12 運動・散歩に必要な英語の学習 13 食事に必要な英語の学習 14 工作・お絵かきに必要な英語の学習 15 おたより・行事に必要な英語の学習					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 英語コミュニケーションⅠ			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 阿部 修久
授業の回数 8回	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>科学的な健康づくりを学び、自己の健康づくり及び幼児から高齢者までの健康づくりの指導ができるようになることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>健康科学のテキストにより科学的健康づくりを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>自己の体力増進や健康管理ができるとともに、指導者として自己や周囲への運動処方が考えられるようになる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 運動処方① 2 救命救急 3 生活と運動 4 薬物・喫煙・飲酒と健康 5 健康日本21 6 運動処方② 7 運動の基礎理論 8 自己の健康 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 健康科学			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 体育		授業の種類 実技 (講義・演習・実習)		授業担当者 阿部 修久	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生涯にわたって運動やスポーツを自ら実践することができる能力を身につけることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>将来、指導者としての指導法や競技運営について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>実技を通して技術の上達、ルールを理解し審判ができるとともに試合運営ができるようになる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 2 バレーボール（基本練習） 3 バレーボール（応用練習） 4 バレーボール（チーム練習） 5 障害者スポーツ 6 障害者スポーツ 7 バトミントン 8 バトミントン 9 バトミントン 10 バスケットボール 11 バスケットボール 12 卓球 13 卓球 14 卓球 15 ウォーキングとその効果 					
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 健康科学			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)		

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 憲法		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 浦澤 佳弘
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>憲法は「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。このことを理解することが、講義の目的である。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>日本国憲法の全体像が理解できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>日本国憲法の成立過程・基本原理とその相互関係を説明できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 憲法と立憲主義・日本国憲法史 2 日本国憲法の構造・基本原理・象徴天皇制 3 基本的人権の保障 4 精神的自由権 5 身体的自由 6 経済的自由権 7 社会権 8 参政権と国務請求権 9 統治機構の基本原則 10 国会と立法権 11 内閣と行政権 12 裁判所と司法権 13 財政 14 地方自治 15 憲法改正 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 憲法 — 上田正一著			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 情報基礎		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 藤澤 章
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>パソコンをはじめとする情報機器を実際に操作し、活用できる能力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>コンピュータの利用技術を学習し、応用操作を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>様々なパソコンの基本操作を理解し作成する能力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 windowsの基本操作 2 ネットワークの基本 3 文書作成・編集 4 罫線・表・図形・の活用 5 イラスト・画像の活用 6 基礎関数の利用 7 応用関数の利用 8 グラフの作成 9 プレゼンテーションソフト 10 webページの作成 11 表計算ソフト 12 データベース機能 13 シート分析と入力規則 14 「園だより」の作成 15 「園だより」の作成 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 情報リテラシーと処理技術			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 斉藤 茜
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育現場で実践できる活動を知る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 資料を用意し理解を深める。グループ討議・発表を行い、知識の定着を図る。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] グループで協力して活動する力や周りの状況に対応できる力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活動の意義と目的 2 表現遊び 3 身体表現 4 身体表現 5 散策（公園） 6 集団遊び（少人数） 7 集団遊び（大人数） 8 集団遊び（大人数） 9 戸外活動 10 製作 11 行事活動等の計画・準備 12 行事活動の発表 13 新聞遊び 14 廃品を使つての製作 15 まとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 活動に関する資料			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 一般教養		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 門脇 ひとみ
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1 学年	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>社会の仕組みについて理解する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>章節ごとに資料を用意し、質問形式を取りながら理解を深める</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>コミュニケーション能力について理解する</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 職業観と企業 2 仕事の進め方 3 一般知識 4 基礎用語と基礎知識 5 職場の人間関係 6 社会人としての話し方 7 ビジネス文章 8 職場のマナー 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育実習指導		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 川野 千枝
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 実習に向けて、実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 教育実習の意義と目的、実習生としての心構えを学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 幼児の発達の特長や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習の意義と目的、実習生としての心構え 2 実習の具体的な進め方と内容 3 子どもを取り巻く様々な環境 4 幼児理解と保育 5 観察の視点・実習日誌の捉えかた 6 実習の映像記録から「子どもと出会う感動」「子どもとともに深める」 7 保育指導案の立案 8 実習の総括と評価、課題の明確化 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 教育実習事前事後指導			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係論		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 齊藤 満幸
授業の回数 8	時間数(単位数) 15 (1)	配当学年・時期 1 学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間関係を育てる体験学習の理論と方法について説明し、それに関する知見を日常の対人関係にあてはめて考え、生かすことができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>講義や実習を通して、自己の対人関係の在り方について考え、保育者として必要とされる基本的な対人関係の能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>子どもとの触れ合いを通して自己の人間関係について気づきを得て理解を深めることができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対人コミュニケーションの基礎理論 2 自己表現 3 自己理解 4 自己理解 5 人間関係を育てる体験学習の理論と実践 6 人間関係を育てる体験学習の理論と実践 7 グループワーク 8 まとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 教育心理学		授業の種類 講義 (講義・演習・実習)		授業担当者 本堂 敦
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 1学年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育心理学の目的を理解し教育活動を効果的に進めるための知識や技術、実践方法を学ぶ</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>教育心理学の目的と教育心理学の領域を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教育心理学の目的や領域を理解し、保護者への子育て支援においても、教育心理学で得た知見を活用することによって、より実践的なアドバイスが出来るようになる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育心理学とは 2 教育心理学とは 3 こどもの発達 4 こどもの学び（学習・記憶・思考） 5 こどもの学び（学習・記憶・思考） 6 学ぶ意欲 7 学ぶ意欲 8 どのように考えるか 9 どのように考えるか 10 評価する 11 評価する 12 パーソナリティ 13 パーソナリティ 14 発達と心の問題への対応 15 発達と心の問題への対応 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領 教育心理学</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p>	

【別紙 8】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 課題研究		授業の種類 演習 (講義・演習・実習)		授業担当者 伊藤 寛子
授業の回数 8	時間数(単位数) (15) 1	配当学年・時期 1年	必修・選択 選択必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 保育者の役割について理解し、保育観を明確にする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 問題を論理的に整理し、学生間でグループディスカッションを行いより実践的な知識や技術の習得を目指す。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 自分の課題を見つけ、それについて調べ、解決策を探りより実践的な知識の習得を目指す</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 課題研究への導入 2 保育とは何か 3 アクティブ・ラーニング 4 アクティブ・ラーニング 5 アクティブ・ラーニング 6 グループ討議 7 グループ討議 8 総括 				
[使用テキスト・参考文献] 保育所保育指針 認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)	